

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

「鉄道と地域守れ」の住民の声 ～四国での廃線攻撃との闘い～

徳島で廃線問題に取り組む方からいた
だいた投稿を紹介します。

JR四国各線の現地調査を開始

JR四国各線の現地調査を始めました。JR四国は全線赤字。営業係数の徳島県内ワースト1が牟岐線（1185円）、ワースト2が鳴門線（483円）です。

現地を歩いて2つの数字のトリックに気づきました。小さいトリックは支線の営業係数。そもそも始発駅は乗客が少ないので係数が悪くて当然。鳴門線は鳴門―徳島駅の20キロで運行しており、まったく実体を反映していない係数です。だまされてはいけません。

大きい数字のトリックはJRグループ全体の収支です。

JR四国の赤字は毎年100億円。30年で3千億円の累積赤字。

しかしJR東海は1年で3千億円を純利益で上げています。JR四国や北海道の赤字は十分補填できます。作
為的赤字で軍事費10兆



JR四国・牟岐線

円をねん出するなど、絶対に許されません。牟岐線沿線の現地調査では、2つの高校が同時に統廃合で消滅し、若者が消えています。他方で2千億円の純利益を上げる国交省系の独立行政法人・都市再生機構（UR）が、津波対策で40億円の防災公園事業を町に提案。住民の反対運動が起きていました。「ローカル線切り捨てなんて上品なものじゃない。初めからツブしにかかってきている」という意見を聞きました。

「公共交通の駅を中心に街が成立」

7月に開催された住民の意見交換会では、前半は「どう黒字にするか」の意見の方向に。「運賃値上げやむなし」「古い木造駅舎を歴史遺産に」「無人駅で産直市を」。高校生から「関連グッズの作成」「Wi-Fiつけて」「地元企業のラッピング電車」などの意見も。

流れを変えたのは1人の住民の発言です。「田舎の無人駅でも朝晩は通勤通学の自転車ラッシュ。やはり駅は街の中心。公共交通の駅を軸に街は成り立っている」「駅のトイレ閉鎖は高齢者にはつらい」「トイレ付列車を導入するというJRの発想ではなくて、まず駅にきれいなトイレを作る。そこに自然と人は集まる」など公共交通としての「鉄道と地域を守る」真剣な意見が出ました。